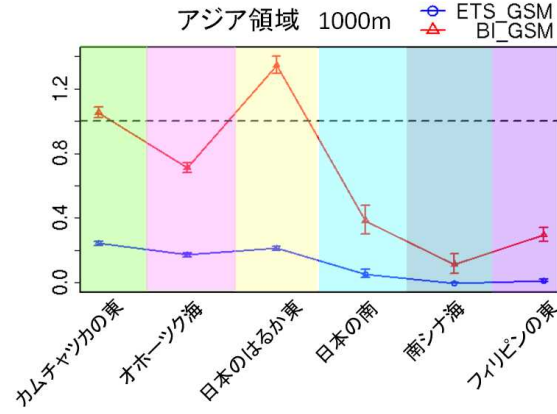
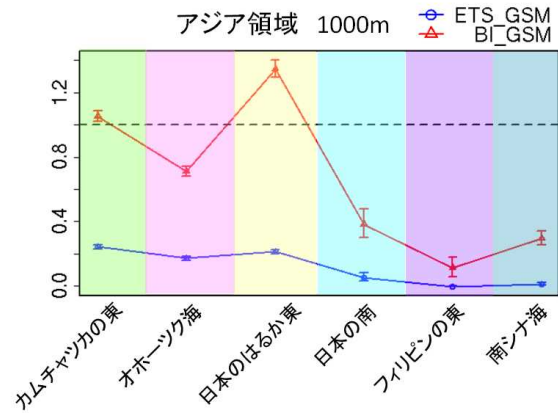


平成 25 年度数値予報研修テキスト正誤表

最終更新日：2014 年 3 月 17 日

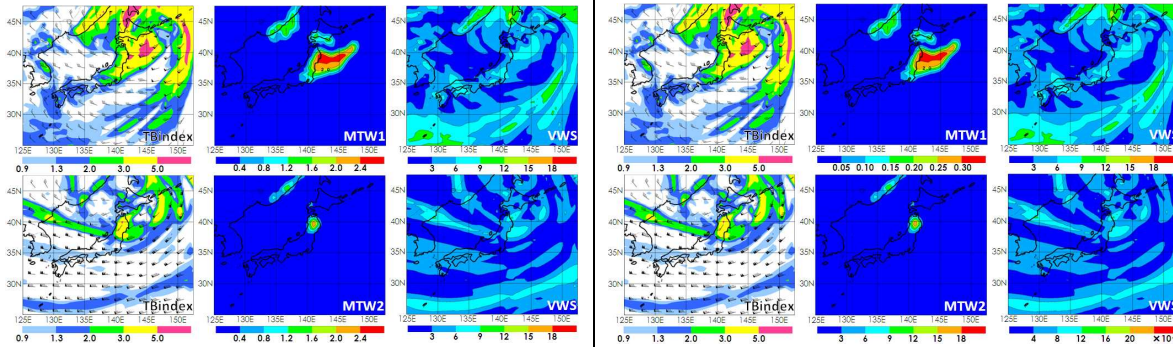
該当箇所	正	誤	修正日
p.3 右段 16 行目	大気下層(<u>975hPa</u>)の比湿の水平分布	大気下層(<u>925hPa</u>)の比湿の水平分布	2014 / 1 / 17
p.9 図 1.2.13 キャプション 3 行目	旧領域実験 (黒線)	旧領域実験 (青線)	2014 / 1 / 17
p.16 右段 3 行目	初期値 (27日 <u>15</u> UTC、同日 <u>18</u> UTC)	初期値 (27日 <u>12</u> UTC、同日 <u>15</u> UTC)	2013 / 12 / 26
p.43 左段 14 行目	図3.1.2右図は、実際に解析雨量を用いて線形予測とした結果であるが、	図 3.1.1 右図は、実際に解析雨量を用いて線形予測とした結果であるが、	2013 / 12 / 24
p.45 図 3.1.5 左端図			2014 / 3 / 17
p.49 表 3.2.2 右列下段	最大風速 <u>6.0</u> ,13.0,20.0,25.0KT	最大風速 <u>-1.0</u> ,13.0,20.0,25.0KT	2013 / 12 / 27
p.50 右段 44 行目	航空ガイダンスでは最大風速ガイダンスが利用されるケースを風速15ノット以上の場合と考え、13～25ノットに閾値を設定し、 <u>最下位の閾値は6.0とした。</u>	航空ガイダンスでは最大風速ガイダンスが利用されるケースを風速15ノット以上の場合と考え、13～25ノットに閾値を設定し、 <u>最下位の閾値を-1.0とした。最下位を-1.0とする設定は、弱風時に頻度バイアス補正による補正量を0に近づけるためのものである。</u>	2013 / 12 / 27

p.60 図 3.3.5 左図
「フィリピンの東」と「南シナ海」を入れ替え



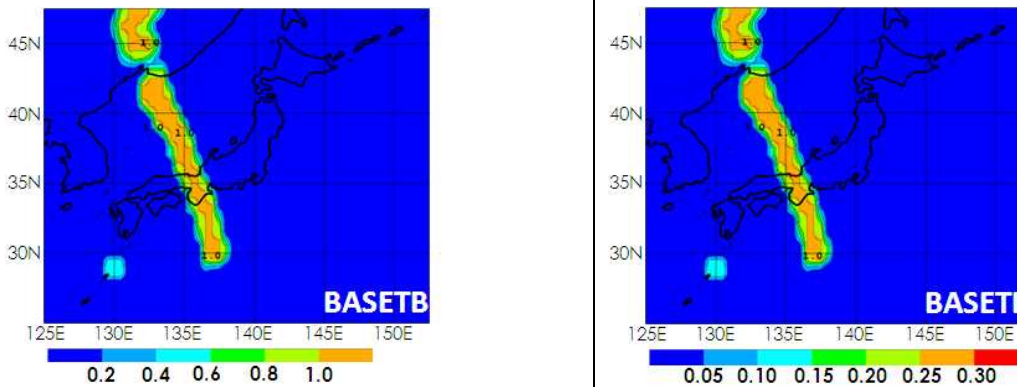
2013 / 12 / 26

p.67 図 3.4.11
「MTW1」、「MTW2」および下段の「VWS」のカラーバーを修正



2013 / 12 / 26

p.68 図 3.4.14 中図
カラーバーを修正



2013 / 12 / 26

p.97 図 4.2.14 キャプション 8 行目	白抜きは気圧が地表面気圧より <u>高い</u> 部分。	白抜きは気圧が地表面気圧より <u>低い</u> 部分。	2014 / 1 / 17
------------------------------	------------------------------	------------------------------	---------------